

アジアに酸性雨のモニタリングネットワークを展開するうえで、東アジアと東南アジアの接点にあたる台湾は、地理的にみてきわめて重要な位置づけにある。酸性雨の「先進国」であるヨーロッパや北アメリカで研鑽を積んだ研究者の層も厚い。大陸との複雑な関係が足かせになることはよく分かる。だが、これを越え

て連携を図っていく方策はないものだろうか。なにしろ大気には国境がないのだから。

参 考 文 献

- 朴 惠淑, 米本昌平, 1996: 酸性沈着に関する第5回国際学会に参加して, 天気, 43, 177-180.

「天気」論文・短報・解説への英文要旨・英文図説の掲載について

「天気」編集委員会

「天気」編集委員会では、この度理事会の承認を得て、1997年1月1日以降に受理する論文・短報・解説について、著者が希望する場合には、「天気」に英文要旨の掲載と図説（図表の説明）における英文の使用を認めることにいたしました。

「天気」編集委員会では、かねてから論文・短報・解説の著者より英文要旨・英文図説を掲載してほしいという要望が強くあることを考慮して、様々な角度からこの問題を検討して参りました。英文要旨・英文図説の掲載の希望がある主な理由は、「天気」の論文を外国人研究者が参照する際に有用だということです。「天気」としては基本的には多様な会員の皆様のニーズにできるだけ答えたいと考えておりますが、英文要旨・英文図説を掲載することで会員の皆様にとって「天気」が読みづらくなったり、「天気」へ投稿しにくくなったりしないかという点を中心に検討しました。

まず、すべての会員の皆様が従来と変わりなく投稿できることを保証するために、英文要旨・英文図説の掲載はすべての著者に求めるのではなく、著者が希望する場合に限ることにいたします。また、英文要旨を

掲載する場合にも和文要旨の掲載を義務づけ、英文図説をつける場合には図の内容が理解できるように本文中で十分な説明を行うことを義務づけることにいたします。

これを機会に気象集誌編集委員会の協力のもと、「天気」の英文目次を気象集誌に掲載することにいたします。また、海外からのアクセスを容易にするために、気象学会 WWW にも「天気」英文目次と英文要旨を掲載いたします。

以上の変更に伴い論文・短報・解説の投稿要領・印刷体裁に1997年1月号から若干の変更が生じます。新しい投稿要領については1997年1月号の「「天気」投稿及び内容案内」並びに各号冒頭の投稿規定をご覧ください。

「天気」では、これからも幅広い会員の皆様からのご要望に応じて、新しいカラムの創設など様々な企画を検討していく予定です。新しい企画に対するご要望やご批判など、会員の皆様の声を天気編集委員会までどしどしお寄せ下さい。